

令和7年度 第1回知立市地域福祉計画策定委員会 会議録

令和7年8月27日(水)

午後1時30分

知立市中央公民館 中会議室

1. 出席者

(出席者) 9名

◎高橋委員、柴田委員、箕浦委員、神谷委員、永井委員、豊田委員、三浦委員、
伊藤委員、村松委員

◎事務局 福祉課(部長、課長、係長、主事、主事補)

(欠席者) 2名(蔭山委員、甲斐委員)

2. 議題

(1) 会長、副会長の選任

(2) 第4次地域福祉計画・地域福祉活動計画のアンケート案について

(3) 計画策定スケジュール・計画の策定体制について

【質問】

(1) 会長、副会長の選任

(箕浦委員)

本日は欠席ということですが前回も委員長を務められていた蔭山委員を推薦します。

(事務局)

箕浦委員からご推薦の意見がありましたがいかがでしょうか

(出席委員)

異議なし

(事務局)

ありがとうございます。それでは、蔭山委員に会長をお願いしたいと思います。なお事前に蔭山委員に確認したところ、本日は所用で欠席ということでしたが今後は出席されると聞いております。

続きまして、規則第3条第2項の規定により、副会長を会長から指名していただきたいのですが、事前に蔭山委員が会長になった際に誰を指名するか事務局のほうを確認したところ、永井委員を指名するという連絡がありました。

会長からご指名がありましたので、永井委員、よろしくをお願いします。

副会長からごあいさつをお願いします。

(永井委員)

以前は社協の活動計画と市の福祉計画がばらばらであった。別々では連携が取れないのではと思う。計画を一緒にやるようになって長い。

蔭山委員は障がい者に精通している。知立市お住まいで大学名誉教授。育成会に入ってから蔭山委員の教えのもと活動してきた。

蔭山委員のもとまだまだ励んでいきたい。

(2) 第4次地域福祉計画・地域福祉活動計画のアンケート案について

(事務局)

事務局より説明。

(永井委員)

事務局より説明がありましたが質問等がありますか。

(箕浦委員)

地域福祉計画と地域福祉活動計画の違いは何か。

(事務局)

市が作っているものと社協が作っているものという違いがある。

(箕浦委員)

ハッピープランや高齢者・子育て支援計画も含まれたアンケートか。

(事務局)

別物である。地域福祉計画は福祉分野を総括する存在。したがってアンケートの内容等、他の計画との整合性をとる必要がある。

(永井委員)

計画の意味をとらえていくことが重要。理解できれば重要な会議であると理解していただけだろう。

この計画は福祉の基礎となるため大事なものである。しかし範囲が広く、自分も分からないことがあると思う。自分が感じた部分だけでも良いので意見をいただきたい。

(高橋委員)

なるべく多くの人に回答をしてもらいたいが、回答率が30%を超えるのは難しいということも理解している。一般の方の意見はたくさん知りたい。今回のアンケートについて、年代は関係なしに抽出するのか、また年代が偏ったときはどうするのか。

(事務局)

無作為抽出のため偏りがあっても調整する予定はない。今回ははがきでのアンケートのみではなく公式LINEでもアンケートを募集する予定である。回答フォームを分けることでどちらからの回答なのか区別できるようにする予定である。

(高橋委員)

LINEだと手軽さがあり、良いとおもう。Web回答について、質問数が多いと思うが、中

断しても途中から回答しなおすことは可能か。

(事務局)

Logo フォームであれば端末が変わらない限り中断することは可能である。

(村松委員)

調査の方法について、前は20歳以上となっていたが今回は18歳以上と変更されている。しかし若い世代は公式LINEを見ない。次の世代を対象とするならその意見を反映する必要がある。抽出の段階で世代ごとに分けることはできないか、人口比で行けば高齢者が多くなってしまわないのでは。

(事務局)

抽出の段階で分けることが可能かどうか確認の上検討します。

(箕浦委員)

アンケートの内容について、前回から変更があった部分について説明してもらいたい。

(事務局)

変更内容について説明。

(豊田委員)

2000人にはがきを送付となっているが、その基準は何かあるのか。回収率を上げるためには年代別に分けたらどうか。

(事務局)

ほかの計画でも2000人くらいに送付している。

(永井委員)

ほかの計画の際にも似たような話が出たが、統計的に2000人くらいになっていると聞いた。

ほかのアンケートの話になるが、Webアンケートはスマホを見慣れている若者の回答は意外と多かった。紙面での回答をなくしてもあまり回答数は変わらなかった。

(伊藤委員)

家にWi-Fiが無い場合もあるため紙面での回答もできるようになっていると良いと思う。

(永井委員)

本当は市民7万人全員の意見を聞くべきだがどこかで変え時がある。一度やってみなければわからない部分もある。

(事務局)

事務局としてもやってみなければわからない。スマホで回答できると早いが、紙面での対応もする予定である。

(永井委員)

障がいのある方はシステムに疎いためフォローが必要となる。高齢者の場合は回答したい気持ちがあってもできないことがあると思う。

(高橋委員)

前は福祉活動の主体者にも回答してもらっていたが、今回も回答してもらうのか。外国人は多いと思うが、アンケートで配慮する予定はあるか。

(事務局)

外国語にできるかどうかは調べてみる必要がある。

福祉活動の主体者に回答してもらうかは検討中。回答の傾向が変わると思うため、やる場合は回答を分けると思う。活動団体にヒアリングする予定はある。

(柴田委員)

前回のアンケートはいつの結果なのか。新たにアンケートをとる目的は何か。

(事務局)

前回のアンケートは2021年度の結果。コロナ明けで社会が変わっていると思われる。また、4年間で市民の意識は大きく変わっていると思うため新たにアンケートを行う。

(柴田委員)

これまでの成果が見たいわけではないのか？

(事務局)

理念の計画であるため、意識の変化を見たいというのと、社会の変化を見たいという認識である。

(永井委員)

計画は何度も見直しを行うものであるという認識でよいか？

(事務局)

市民が何を望んでいるのかを知り、時代に合ったものを計画していく必要がある。

(村松委員)

アンケートに載っていないことが他の計画に載っているかわからないが、どうすればよいか？また、今回のアンケートについて、市民がボランティア活動したいかどうかを確認するためのアンケートであると感じた。市に求めているものを書く項目がない。制度のはざまについての意見を求めることはあるのか。

(事務局)

こういうこと聞いたほうが良いのではという意見があれば言ってほしい。他の計画にあるか確認の上対応する。

この計画は、基本的には理念の話になるが、重層支援やヤングケアラーなどアンケートで入れたほうが良いのであれば入れることは可能。

(箕浦委員)

個別計画に乗せてほしいと思っていることがある。この数年大きく変わっているが、子育てについて、学校が家庭や地域に出ていた時代は変わったが、地域はなり手がない。家庭では貧困。体験の機会がない。よって、学力の二分化が固定している。そこへの対策を個別計画に乗せてほしい。また気候変化について、酷暑により高齢者は影響を受けやすい。

熱中症対策も変わっている。それについてもどこかで書いてほしい。

(事務局)

学校と地域の役割について項目を追加するかもしれない。

(村松委員)

東京のエアコン助成について、名古屋市でも助成しているようだ。地域包括では、民生委員から電話があって、エアコンがない高齢者について動くことがある。知立でも同じとは言わないが、聞いてみてはどうか？

(事務局)

高齢者の実態調査を毎年やっている。そこでエアコンについては聞いているようである。

(永井委員)

10年経たずして地域の実情は目まぐるしく変わっている。今では学校にエアコンがあるのが当たり前になっている。自分の子供のころは30度を超えれば暑いという認識であったが、今は朝で30度超えている。エアコンの省エネ助成もよいと思った。その都度訴えていくことが大事。

蔭山委員の教えて、どう答えたらよいかわからない人はアンケートの最後の自由記述をよく書くべしと教わった。Webでも目立つようにしておいてほしい。

アンケートをLINEで回答しようと思っても、流れてしまうので、何回かアナウンスを流してほしい。

(事務局)

最初の1回は周知を行うが、終了間際にもう1回できるかどうかのレベル。

(3) 計画策定スケジュール・計画の策定体制について

(三浦委員)

令和7年11～12月の関係団体ヒアリングはどうやる予定なのか。

(事務局)

皆様の団体に関わってくると思う。事前に聞く内容が分かれば共有するが、基本的には課題や現状などを聞くことになると思う。

(村松委員)

関係団体とは具体的にどこか。市の職員ではなく事業所なのか。

(事務局)

前回のヒアリングでは、市役所外の地域包括や相談事業所などに聞いた。

(永井委員)

「関係団体」というが、事業団体である必要がある。そのため、前回は育成会のようなボランティア団体にはヒアリングが来なかった。

(高橋委員)

前回の関係団体は、ほぼ社協ということになる。

(事務局)

ボランティア団体にもヒアリングできるのであれば行いたいと思う。

(永井委員)

ハッピープランではヒアリングがあったので、私的にはそういうものだと理解している。

100%の解決は難しいので、今聞いたから完璧とは考えてほしくない。相談側の思いと従事者の思いは食い違うことが多いが、相談件数だけみてしまうと充実していると思えてしまう。結果、まあまあ良いという表現になる。これは完璧ということではないので、数字で表しにくいこともあるということを理解したうえで計画してほしい。

活動計画とまとめる以上、できる計画を立ててほしい。他市と比べるなどいわれるが、他市と足並みをそろえることも大事。後れを取らないようにしてもらいたい。

以 上